

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
第44回理事会議事録

1. 開催日時 : 令和3年4月26日(月) 午後4時00分
2. 開催場所 : 東京都中央区晴海四丁目7番28号 ホテルマリナーズコート東京 白鳳
3. 出席者数 : 理事総数 45名 出席理事数 40名  
監事総数 2名 出席監事数 2名
4. 出席者氏名 : 名誉会長 御手洗 富士夫  
理事 橋本 聖子、武藤 敏郎、布村 幸彦、河野 一郎、山脇 康、  
荒木田 裕子、中森 邦男、谷本 歩実、田中 理恵、横川 浩、  
ヨーコ ゼッターランド、高島 なおき、河野 雅治、松本 正義、  
秋元 康、蛭川 実花、高橋 治之、津賀 一宏、泉 正文、遠藤 利明、  
王 貞治、小山 くにひこ、東村 邦浩、豊田 周平、渡邊 守成、  
山下 泰裕、多羅尾 光睦、中村 倫治、大日方 邦子、齋木 尚子、  
佐々木 かをり、白石 弥生子、白波瀬 佐和子、高橋 尚子、  
芳賀 美津枝、林 いづみ、日比野 暢子、靱井 圭子、矢野 晴美、  
來田 享子  
監事 塗師 純子、堤 雅史  
(上記のうち、以下の理事及び監事はWeb会議システムにより出席)  
理事 田中 理恵、ヨーコ ゼッターランド、松本 正義、秋元 康、蛭川 実花、  
津賀 一宏、泉 正文、王 貞治、豊田 周平、渡邊 守成、多羅尾 光睦、  
大日方 邦子、齋木 尚子、來田 享子  
監事 塗師 純子

5. 議事の経過の概要及び議決の結果

上記のとおり定足数の出席があったので、定刻、定款第33条第1項の規定に基づき代表理事(会長)橋本聖子氏が議長席に着き開会を宣し、本理事会はWeb会議システムを用いて開催する旨述べた後、挨拶をした。

その後議長は、本理事会の進行役として理事武藤敏郎氏を指名し、武藤敏郎氏はそれを承諾した。

続いて進行役が指名し、令和3年4月20日付けの書面による評議員会でのご承認を経て、新たに監事にご就任頂いた堤雅史氏が挨拶をした。

続いて進行役は、先週のIOC理事会後の会見におけるバッハ会長の発言について、その真意を報告した。

続いて進行役の指名により、理事中村倫治氏が、東京都における新型コロナウイルス対策等について報告した。

その後進行役は、Web会議システムにより、出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることが確認された後、直ちに下記報告事項の報告に入った。

〔報告事項〕

1 東京2020聖火リレーの実施状況報告等について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、別紙資料1-1記載のとおり、東京2020オリンピック聖火リレーのこれまでの実施状況を報告した。

続いて、新型コロナウイルス感染症対策について、沿道の密集対策のポイントを報告した。

続いて、東京2020オリンピック聖火リレーの実施に際しては、各府県における新型コロナウイルス感染症の感染状況及びまん延防止等重点措置等の発出状況を踏まえ、各府県と協議の上、柔軟に対応している旨報告し、長野市、大阪府及び愛媛県における具体的な対応内容を報告した。

続いて、東京2020オリンピック聖火リレーの各都道府県の実実施スケジュールを報告した。

続いて、東京2020パラリンピック聖火リレーについて、現在の状況及び今後のスケジュールを報告した。

2 新型コロナウイルス対策について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、別紙資料1-2記載のとおり、東京2020大会における新型コロナウイルス対策のための専門家ラウンドテーブルを実施する旨報告し、その趣旨、構成員及び開催予定について報告した。

続いて、大会に向けた検討点及び安全・安心な夏に向けた取組の今後のスケジュールを報告した。

3 ジェンダー平等／多様性と調和の推進に向けた取組について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、別紙資料1-3記載のとおり、まず、令和3年3月22日までの状況について、ジェンダー平等推進チーム発足後、理事、アスリート、人権の専門家、職員等に、短期間に幅広くご意見を聴取し、今後のアクションについて、①目に見える取組、②ムーブメントを起こす、③レガシーに繋げるの3つの柱を定めた旨報告し、本理事会においては、目に見える取組の具体化の状況を報告し、「東京2020宣言（仮称）」のたたき台の説明をする旨述べた。

続いて、目に見える取組の進捗状況について、令和3年3月30日に当法人の公式ウェブサイトの特集ページを開設した旨報告した。また、新聞等のメディアにも掲載して頂き、これまでの取組等を発信している旨報告した。

続いて、5月のアクションについて、オンラインフォーラムの開催予定及び職員アンケートを基に「コミュニケーションマナー集（仮）」を作成する旨報告した。

続いて、大会本番に向けた検討について、JOC・JPCと連携してアスリートへの性的ハラスメント撮影対策を進めている旨述べ、大会ボランティア研修の研修資料に対策を盛り込み、既にオンラインによる研修を開始している旨報告した。また、実際に会場でアスリートへの性的ハラスメント行為を発見した場合の対応方針について、現在検討している旨報告した。

続いて、多様性と調和の実現に向けた現場の取組について、アプリを活用して競技会場内のアナウンス等を多言語で文字配信する取組を報告した。

続いて、トヨタ自動車株式会社の協力を得て、会場（オリンピックスタジアム）におけるロボットによる車いすの方のサポートを行う旨報告し、モニターに動画を投影し、その取組の内容を紹介した。

続いて、東京2020宣言（仮称）について、その目的、対象、宣言のイメージ及び発表方法を報告した。

続いて、東京2020宣言（仮称）のイメージについて、サンプルを配布した上で、趣旨、理念、宣言名、アクションの各項目の記載及び「全般」についてのアクションメニューの一例、「ジェンダー・LGBTQ」、「心身機能」、「世代・ライフステージ」、「文化・習慣・出自」の各分野のアクションメニューの一例を説明し、表現やアクションメニューの内容等について意見を頂きたい旨述べた。

続いて、東京2020宣言（仮称）の今後のスケジュールを報告した。

#### 4 東京2020組織委員会・JOC・JPC 3団体合同アスリート委員会の開催について

議長の指示により進行役が指名し、事務局は、別紙資料1-4記載のとおり、東京2020組織委員会、JOC及びJPCの3団体合同アスリート委員会について、その開催日時、形式、参加者、議題及び今後の予定について報告した。

その後、理事高橋尚子氏が、東京2020組織委員会、JOC及びJPCの3団体アスリート委員会の議題について、別添資料1及び2を用いて、その内容を報告した。

その後、議長の指示により進行役は、本日配布した別紙資料2-1乃至2-3の各内容については、当該資料の配布をもって報告したものとする旨報告した。

上記議事の審議が全て終了した後、議長の指示により進行役は、意見交換に入った。

意見交換では、「新型コロナウイルス対策」については、対策の根拠及び決定プロセス並びに検査方法及び頻度等に関する情報発信、陽性者が出た場合のシナリオの作成及び公表、選手が選手村以外に滞在する場合の対策、選手を含む大会関係者の体調等に関する帰国後の追跡的なデータ収集、アバター観戦導入の検討、大会の医療体制への全国的な協力依頼、オリンピックとパラリンピックにおける新型コロナウイルス対策の違い、具体的な数値に即した新型コロナウイルス対策の発信、大会関係者の行動管理の徹底及びパラリンピック選手や既往症を持った選手への十分なケアについて等の意見交換がなされた。

また、「ジェンダー平等/多様性と調和の推進に向けた取組」については、取組や活動を社会へ広げていくための情報発信の工夫、東京2020宣言（仮称）の基本的なコンセプトや構成、効果的な発信に関する提案、取組や活動を具体的なレガシーにつなげていくための検討、ジェンダー平等やD&Iを社会全体に浸透させる取組及び大学連携事業等を活用した若者や子供たちを巻き込んだ情報発信について等の意見交換がなされた。

さらに、「アスリートの情報発信」については、大会を契機としたアスリートからの発信による裾野の拡大、報道関係機関と連携した定期的な情報発信及び効果的な情報発信のタイミングについて等の意見交換がなされた。

意見交換終了後、進行役が、東京2020宣言についていただいた意見のとりまとめを代表理事（会長）、荒木田副会長、小谷スポーツディレクターに一任することにつき、その承認を議場に諮ったところ、満場一致の議決をもって承認された。

以上をもって本理事会における全報告事項の報告及び意見交換を終了し、Web会議システムを用いた本理事会は、終始異状なく終了したので、議長は、午後6時23分閉会を宣した。

上記議事の経過の要領及びその結果を記載し、本議事録を作成し、一般法人法第197条により準用する同法第95条第3項及び定款第36条第2項の規定に基づき、出席した代表理事（会長）及び監事が以下に署名又は記名押印する。

令和3年6月1日

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会